

最上広域市町村圏事務組合  
新消防庁舎基本実施設計業務委託公募型プロポーザル

審査結果報告書

令和4年8月

新消防庁舎基本実施設計業務委託  
公募型プロポーザル審査委員会

## 1. 選定結果

最優秀者 羽田・寒河江測量特定設計業務共同体 得点445点  
優秀者（次点者） 株式会社佐藤総合計画 東北オフィス 得点440点

## 2. 選定概要

### (1) 選定方法

設計者の選定については、公募型プロポーザル方式を採用し、新消防庁舎基本実施設計業務委託公募型プロポーザル実施要項に基づき、公募を行いました。

審査にあたっては、新消防庁舎基本実施設計業務委託公募型プロポーザル審査委員会による1次審査及び2次審査を経て、最優秀者及び優秀者を選定しました。

### (2) 参加表明者

5者

### (3) 1次審査

1次審査では、提出された参加申込書類により、新消防庁舎基本実施設計業務委託公募型プロポーザル審査項目に基づき、会社概要、業務実績、配置予定技術者の技術力及び資格について評価を行いました。

この審査の結果、参加表明者5者すべてに対し2次審査の参加者として技術提案書の提出を求めることとしました。

### (4) 2次審査

2次審査では、1次審査で選定された5者より提出された課題別技術提案書及び見積書について評価を行い、プレゼンテーション及びヒアリングの結果を踏まえ、厳正な審査により総合的に判断した結果、評価点の最も高い提案者を最優秀者に、次に高い提案者を優秀者に選定しました。

### 3. 審査委員会

役職	氏名	所属等
委員長	佐藤 慎也	山形大学学術研究院教授 (工学部建築・デザイン学科)
副委員長	奥山 敏明	最上広域市町村圏事務組合消防長
委員	長沢 祐二	新庄市都市整備課長
委員	羽賀 千春	最上広域市町村圏事務組合事務局長
委員	毛利 俊彦	最上広域市町村圏事務組合消防次長兼消防署長
委員	井上 徹	最上広域市町村圏事務組合総務課長

### 4. 選定経過

参加申込書の受付開始	令和4年6月 7日 (火)
参加申込に関する質問書提出期限	令和4年6月14日 (火)
参加申込に関する質問への回答	令和4年6月16日 (木)
参加申込書の提出期限	令和4年6月22日 (水)
プロポーザル審査委員会 (一次審査)	令和4年7月 4日 (月)
一次審査選定結果の通知	令和4年7月 5日 (火)
技術提案に関する質問書提出期限	令和4年7月20日 (水)
技術提案に関する質問への回答	令和4年7月22日 (金)
技術提案書の提出期限	令和4年8月 9日 (火)
プロポーザル審査委員会 (二次審査：ヒアリング)	
	令和4年8月22日 (月)
二次審査選定結果の通知	令和4年8月30日 (火)

### 5. 総評

本事業は、最上広域での消防・防災を持続可能な地域に配慮した消防本部と事務組合機能を備えた新消防庁舎基本実施設計業務委託の公募型プロポーザルを実施したものである。二次審査では、5者による技術提案書に基づきヒアリングを行い、以下の6項目について評価を行った。

#### ①災害活動拠点として災害に強く持続可能な庁舎づくりのために

- 1) 災害及びバックアップ機能に対する考え方
- 2) 迅速かつ機動的な消防機能を発揮できる最適な動線計画について
- 3) 敷地の有効活用に対する考え方 (訓練施設等)

- ②利便性に優れ人にやさしい庁舎づくりのために
  - 1) 来庁者への配慮について
  - 2) 圏域住民への防災情報発信や防災学習について
  - 3) 職員の健康、働きやすさへの配慮について
- ③将来の変化に柔軟に対応できる庁舎づくりのために
  - 1) 執務環境の考え方
  - 2) ユニバーサルデザインについて
- ④経済性に優れた庁舎づくりのために
  - 1) スマート・エネルギーの考え方
- ⑤建設コスト及び維持管理
  - 1) 建物の長寿命化について
  - 2) 建設コスト・ライフサイクルコストの縮減について
  - 3) 効果的な機能共有について
- ⑥雪に強い建物づくりのために
  - 1) 雪国での建築設計について
  - 2) 除排雪に対する考え方

各社とも新消防庁舎の基本実施設計に向けて基本事項を踏まえつつ、意欲的で示唆に富んだ提案であったことに提案作成のための努力を含め、敬意を表したい。この度、最優秀として選定したB案について総評を述べたい。

「災害活動拠点として災害に強く持続可能な庁舎づくり」については、災害及びバックアップ機能に対する考え方として地震発生時にも機能発揮できる庁舎を目指している点が挙げられる。一部免震技術を採り入れた対策、業務継続計画手法に基づいた設計指針を目指している点が評価できる。迅速かつ機動的な消防機能を発揮できる最適な動線計画として庁舎の向きに関して出動動線の仕様を配慮した上で最適な配置を検討している。敷地の有効活用に対する考え方（訓練施設等）では緊急車両車庫のボリュームを配慮した階高の調整を行い、有効な訓練スペースを立体的に検討している。

「利便性に優れ人にやさしい庁舎づくり」については、来庁者への配慮として緊急出動動線とは別に単純な駐車動線と合わせ容易に来庁できるように工夫をしている。アプローチ空間を3層吹抜けなど用いて分かりやすく工夫しており、縦動線をうまく繋げている。

圏域住民への防災情報発信や防災学習として情報発信コーナーと見学スペースを用意し、住民参加の防災訓練やイベント会場としても屋外訓練場等が活用できるように工夫されている。

職員の健康、働きやすさへの配慮としては、業務用居室と生活用居室をゾーニングで分けて、気分転換が図れる環境を用意し、採光や通風で快適性を確保している。女性職員の生活空間への配慮とともに男女共に働きやすい環境を保つために各法令に準拠し、衛生動線を工夫した上で耐久性と衛生面で優れた建材の採用など感染防止対策と車庫内排ガスへの配慮が挙げられている。

「将来への変化に柔軟に対応できる庁舎づくり」について執務環境の考え方では、事務空間の変化に柔軟に対応するための配慮、将来の職員としての男女比の変化への対応、倉庫など増床可能な設計となるよう工夫されている。また全ての来庁者への配慮が職員の日常的な空間、緊急時の安全円滑な対応に繋がる視点としてユニバーサルデザインを捉え直し、その原則に従って設計ポイントがまとめられており、具体的にはどのような工夫が用いられるのか、分かりやすく説明ができています。

「経済性に優れた庁舎づくり」についてスマート・エネルギーの考え方として全熱交換換気設備を採用し、地下水の有効活用、太陽光発電、蓄電池の導入、非常事態での対応等を検討した上でZ E B R e a d y取得を前提とした基本設計を行う方針を明らかにしている。

また環境省の地域レジリエンス(中略)導入推進事業の活用を視野に入れた工程表を作成し、エネルギーの無駄のない(少ない)庁舎を目指している。

「建設コスト及び維持管理」では建物の長寿命化について単純で均等なスパン割とすること、保護材や仕上げ材の工夫、下地防水、漏水リスクの低減、スケルトンとインフィルの分離によるメンテナンス性の向上が示されている。建設コスト・ライフサイクルコストの縮減についてはゴミ置場や組合車庫など別棟計画で合理化し、階高の工夫を通したデッドスペースの解消も配慮されている。また建設費の数倍のL C C費用を検討した上で中長期維持管理計画書の作成など予防的な保全を行うことで運営費の目安を見込みやすく考えている。広域事務組合事務業務空間との共有化、冬季の訓練空間の内部確保など効果的な機能共有を図ることで日常時と緊急時の各業務が迅速に行われる計画が組み込まれている。

「雪に強い建物づくり」では雪国での建築設計について冬季季節風や寒冷地として必要となる対応方法が具体的に示されている。2.5mの積雪荷重を考慮した構造計画、屋根除雪を配慮した動線計画など除排雪に対する考え方も明快である。冬季にも安全な通行や床仕上げの選定に関しても具体的な提案がなされ

ており、夏季と冬季との使い分けも配慮されている。

以上、最優秀として選定したB案について今後、より良い基本実施計画になるように消防本部ならびに最上広域市町村圏事務組合と十分に協議時間を確保するように委員会として提案者に要望する。

令和4年8月30日

最上広域市町村圏事務組合新消防庁舎  
基本実施設計業務委託公募型プロポーザル審査委員会  
委員長 佐藤 慎也